



吉敷の木
「もみじ」



吉敷の花木
「うめ」



吉敷の草花
「マリーゴールド」



吉敷の草花
「サルビア」

ふるさとだよ

吉敷

FURUSATO DAYORI YOSHIKI

2016

10

No. 727



Bブロック陸上・レクスボ総合優勝
市民体育大会



来年また会おうね
ホタル放流の集い



地区の誇りをかけて
市民体育大会

C O N T E N T S

【地域のチカラ】

吉敷地区社会福祉協議会 2

【シリーズ歴史③】

凌雲寺のはなし 4

今月の吉敷人 4

インフォメーション 5

レポート 6

【トピックス】

地域の防災関係者により
「図上訓練」を実施しました 7

【シリーズ地名②】

中尾 7

【よしきで輝く】

コーラスYui 8

かけはし 8

YOSHIKI
DATA

【人口】14,795 (前月比 +14) 【世帯数】6,056 (前月比 -3)

平成28年9月1日現在



吉敷地区社会福祉協議会

地区社協は、地域住民が中心となり、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」の実現に向けて、様々な福祉活動を展開している団体です。

地区社協の組織は、吉敷自治会をはじめ、民生委員児童委員協議会や福祉員協議会などの関係団体で構成され、これらが互いに協力して最善の方策を話し合いながら、地域の福祉課題の解決に取り組んでいます。

地区社協の活動

地区社協は、地域の皆さんや関係団体とともに策定した「地域福祉活動計画」に基づき、住民会費や共同募金配分金などを主な財源として活動しています。

また、この計画は、地域づくり協議会策定の「地域づくり活動計画」と一体的になっており、両計画の計画期間が平成29年度までのため今後、地域の皆さんや関係団体と連携を図りながら、次期計画の策定に向けた素地づくりを進めていきます。

こうした福祉事業の実施とともに、市から委託を受けた指定管理者として「放課後児童クラブ」と「高齢者生きがいセンター」の運営にあたっています。

地域の福祉活動の充実に向け「小委員会」を設立しました

市社会福祉協議会の会費増額に伴い、地区社協活動費が増額となることから、この大切な財源をしっかりと地域の福祉活動につなげていくため、地区社協の中に「小委員会」を設けて、集中的に協議検討を重ねてきました。

新たな福祉活動の実施へ

地区社協では、小委員会での議論を踏まえ、これまで継続してきた福祉事業に加え、下記の活動に対して力を注いでいくことになりました。

現在は敬老行事やサロンがない町内会においても、新たな取り組みが始まることを期待しています。

「新規、拡充する活動」

- ・敬老行事の充実
- ・ふれあいいきいきサロンの充実
- ・多世代の交流促進
- ・福祉団体どうしの交流促進
- ・サロンどうしの交流
- ・ボランティア活動の充実

平成28年度 事業計画・予算

〈収入の部〉

(単位:円)

項 目	予 算 額	内 訳
住民会費	2,400,000	500円×4800戸
市社協助成金	1,151,500	老人福祉行事補助金
	1,760,160	地区社協活動費
	12,100	遺族援護費
	138,000	小地区見守り活動補助金
	362,430	福祉員活動費、ふれあい型給食会補助金
共同募金配分金	917,434	地域福祉活動費
寄付金	485,000	香典返し、寄付金
繰入金	816,000	もみじ学級、げんきやかた、ふれあい型給食会事務費
繰越金他	421,376	前年度繰越金、利息
合 計	8,464,000	

〈支出の部〉

(単位:円)

項 目	予 算 額	内 訳
住民活動費	1,151,500	敬老行事等町内会助成[拡充]
	150,000	広報活動費[新規]
	130,000	サロンの運営支援 [新規]
	200,000	多世代の交流促進[新規]
	286,060	地域福祉活動の促進[新規]
	75,000	小地区見守り活動の推進
厚生保護費	160,000	民生児童委員協議会助成、福祉員協議会助成
	425,430	福祉員活動費、ふれあい型給食会活動費[拡充]
市社協負担金	2,501,000	市社協会費、市社協バス負担金
会議費	30,000	
諸費	80,000	弔電、印刷代他
運営費	830,000	もみじ学級支援員労働保険、事務用品他
繰出金	1,778,000	地域づくり協議会(事業費、人件費)
	20,000	自治会(遺族援護費)
	300,000	財政調整積立金
予備費	347,010	
合 計	8,464,000	

活動中のサロン

町内	内 容
中尾	体操・食事会
赤田	手芸・交流会
佐畑	カラオケ・交流会
中村	カラオケ・食事会
上東	囲碁
	グラウンドゴルフ
	手芸・茶話会
下東	カラオケ・交流会
	グラウンドゴルフ
大橋町	食事会・茶話会
稲葉町	手芸・茶話会



稲葉町のサロンの様子

「ふれあいいきいきサロン」の 充実に向けて

「サロン」とは、身近な地域で、仲間づくりや生きがいづくり、健康保持のための活動をする事で、家に閉じこもることがないように、高齢者から子どもまで誰もが気軽に集える場所のことです。

現在、吉敷地区の各町内会などには、11のサロンが活動中です。中には、三世代の交流を図っておられるサロンや、活動内容の異なる3つのサロンを立ち上げておられる町内会もあります。皆さんも参加してみませんか。

新たなサロンの立ち上げに向け 交流会を開催しました

6月28日、地区内11のサロンを運営されている方々と、サロンが立ち上がっていない町内会の方々に参加していただき、実践報告や情報交換のための交流会を開催しました。未設置の町内会の皆さんは、身近な地域に住民が集まれる場としてのサロンの必要性を認識され、今後、新たなサロンの立ち上げが期待されます。

「吉敷ヘタंक同好会」を設立 参加者を募集しています

地区社協では、地域の交流の場として、また、健康づくりの場として、新たに同好会を立ち上げました。7月25日には、初めての練習会を上東第2公園で行い、その後も毎月第3月曜日に、交流を楽しみながら練習に励んでいます。来年3月には、地区大会を開催する予定です。

今後は、参加された方が、それぞれの町内会にペタंकの楽しさを持ち帰っていただき、新たなサロンとして活動がスタートすることを大いに期待しています。



初めての練習会の様子

ボランティア登録者 募集

ボランティア活動に興味のある方は、一緒に活動してみませんか？
地区社協では、このような方を待っています!!

- ・草刈、清掃作業が好き
- ・簡単な大工仕事ができる
- ・子ども達を対象とした地域交流センター講座などのお手伝い
- ・イベントや祭りのお手伝い など

活動のための傷害保険は地区社協で加入します。
皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

問い合わせ先：☎083-922-3344(地区社協事務局)

ボランティアバンクを設立 登録者を募集しています

7月15日、吉敷地区のボランティアを束ねる組織として、「ボランティアバンク よしき」を設立しました。

これは、地域住民の方が、それぞれ得意分野でボランティア登録いただき、その内容により活動に取り組んでいくものです。まずは、地域の宝である子ども達が集う放課後児童クラブ「もみじ学級」や、つどいの広場「楽楽楽」の草刈などを行い、とても喜ばれています。

小地区見守り活動の推進



町内会長、民生児童委員、福祉員が一堂に会して、高齢者等の見守り活動の充実に取り組んでいます。

高齢者生きがいセンター「げんきやかた」



社会福祉の増進を図るための「高齢者生きがいセンター」。地域の団体が積極的にご活用ください。

放課後児童クラブ「もみじ学級」



就労等により放課後保護者による保育ができないお子さんをお預かりしています。

「凌雲寺のはなし」

東鳳翔山の麓、中尾を東西に分ける台地上に凌雲寺の跡がある。

山口市による発掘調査後、昭和三十四年に大内氏遺跡として国の史蹟に指定された。

平成十五年末から再調査が行われ、翌年には、現地説明会が行われた。

発見された五遺構は、中央に惣門跡と称する石塁と石垣であり、遺物としては、石塁上に散乱する瓦片(丸瓦、平瓦)である。

現在、九万㎡の台地には、二か所の石垣が残っている。惣門に高さ3m、厚さ2mの巨大な自然石を用いていることから、往時の豪壮雄大さが分かる。

言い伝えによると、明応年間(一四九七年頃)に大内義興が菩提寺として開墓となり、創建したと言われているが、宗派、山号、建立年等は詳しくは分からない。

石垣より少し上ると、小石を組み集めてあるが、これはお子様方の墓とも言い、この奥に義興の墓、奥方の墓、開山の墓がある。

下の河原は花河原と言い、往時に河を取り込んだ庭園があったと言われている。付近には、三百坊、射場等縁の深い地名が残っている。

廃寺の年代も不明で諸説ある。

【一説】天文十七年(一五四八)に落雷で焼失した。

【二説】天文二〇年(一五五二)敗走中の義隆一行を、寺門を閉じて入れなかったため、義隆の遺恨で焼失した。

【三説】近藤清石(史家)による「毛利氏の代になって焼失した。」の説がある。

物語としては、二説が面白い。

大内義隆の家臣陶晴賢は、築山館にいた主君を攻めた。義隆は西方の法泉寺(県庁後方付近)に逃れ防戦したが、多勢に無勢で利なく、夜陰に紛れて凌雲寺に逃れ、態勢の立て直しを計った。大変堅固な寺であり、ここで応戦し援軍を待つ策であった。

しかし、凌雲寺の僧は後難を恐れて、堅く山門を閉ざし一行が入ることを拒んだ。仕方なく義隆は父義興の墓参のみをして、わずかな家臣を従え逃れ、長門の大寧寺で自刃した。

その後、凌雲寺に一匹の白ネズミが現れ、火のついたわらを口にくわえ天井を走った。そのため凌雲寺は大火災となり、七日間燃え続けた。

土地の人々は、白ネズミは義隆の怨霊で、入寺を拒んだ恨みがたたったのだと言い伝えた。

No.009



上東住宅団地(114世帯)

いしだ きょうこ
石田 京子 さん吉敷在住 8年
会長歴 1年(任期2年)

- 吉敷地区の東側に位置し、昭和62年度から団地造成が始まり、9棟で構成されています。吉敷地区1番の集合住宅によるマンモス団地です。
- 以前は子ども会が中心となり地区の行事に参加してきましたが、今は子ども会もなくなり、地区の行事への参加も難しくなっています。
- 役員をすることで町内会の事情も分かるようになり、団地ならではの課題もありますが、役員や住民の方々とともに住みやすい環境づくりを心がけていきたいです。

【取材後記】

団地ならではの課題もある中、女性の視点で町内会役員の方々と力を合わせながら奮闘されています。

(広報委員：植野)

今日の吉敷人

【町内会長編】



【インタビューの内容】

- 町内の紹介と特徴
- 町内の今昔
- 今後の展望

No.010



稲葉町(200世帯)

なかむら まさひこ
中村 昌彦 さん吉敷在住 36年
会長歴 2年(任期2年)

- 吉敷地区の東側に位置し、昭和50年頃から団地造成が始まり、現在の国道9号線が整備されるまでは交通の便が悪かったです。また、団地内の高齢化率が高くなっています。
- 以前は町内会行事も多かったですが、今は年2回の公園清掃ぐらいです。空き家には、最近では新しい方が入居されるので、人の増減は少ないです。
- サロン活動が盛んです。新しく町内に入られたり、二世帯同居世帯の方々に町内会行事等に参加していただき、住むまちへの関心を高めていきたいです。

【取材後記】

任期中にできないかもと言われていましたが、希薄になりつつある人と人のつながりを強める工夫を考えておられました。

(広報委員：植野)

イベント案内

子育て講座(ちびっこ運動会)

運動会の季節がやってきました。親子で楽しく体を動かしませんか！

【とき】10月28日(金)10時～11時30分

【場所】地域交流センター 講堂

【対象】未就園児と保護者 25組(先着順)

【参加費】無料

【準備】動きやすい服装、お子さんの飲み物など

【主催】母子保健推進員、つどいの広場「楽楽」

【申込】地域交流センター

☎083-922-3915

10月の予定

1日(土)	交通安全総決起大会 子ども会資源回収
8日(土)	吉敷幼稚園運動会
14日(金)	子宮がん検診
17日(月)	古文書入門講座
20日(木)	ふれあい給食
28日(金)	子育て・「楽楽」講座

11月の予定

6日(日)	親睦ソフトボール大会
9日(水)	母子相談
13日(日)	吉敷ふるさとまつり 市地区対抗男子9人制バレーボール大会
17日(木)	ふれあい給食
19日(土)	良城ふれあいフェスタ
21日(月)	古文書入門講座
23日(水・祝)	親睦ゴルフ大会
27日(日)	ニュースポーツ大会

親睦ゴルフ大会

【とき】11月23日(水・祝)9時集合

【場所】湯田カントリー倶楽部

※表彰式、懇親会は地域交流センター講堂で行います。

【方式】ダブルペリア方式

【参加費】4,000円(賞品代・懇親会費)

※プレー代(8,330円)は別途ゴルフ場へ

【募集】40名程度
※チーム、個人、どちらでの申込みも可能です。

【募集締切】10月31日(月)

【主催・申込】地域づくり協議会

☎083-922-3344

地域交流センター新刊図書案内

・かいけつゾロリのおいしい金メダル

(原 ゆたか)

・かいけつゾロリのじごくじよう

(原 ゆたか)

・キン肉マン 第56巻

(ゆでたまご)

・コンビニ人間

(村田 沙耶香)



民生児童委員協議会からのお知らせ

【回覧板手渡し・声かけ運動の積極的推進】

交通安全週間で立哨するようになり、地域の人々や子ども達の顔を覚えるようになりました。地域の交流会や夏祭りで出会った時には、声かけやすくなり、子ども達もあいさつをしてくれます。

顔を覚え、人を知ること、地域の回覧板も渡しやすくなりました。これからも大人から声かけを心がけ、暖かい会話があらわれ、こちらで広がればいいと思っています。

民生委員 小田 孝子(赤田)

第41回 吉敷ふるさとまつり

とき

平成28年

11月13日(日)9:00～15:00(予定)

ところ

地域交流センター・JA吉敷支所

※詳細は、次のふるさとだよりよきで掲載予定です。



今年も名物肉うどんを用意しよるけ～ね!!

レポート

天然記念物 吉敷生まれのホタル 元気に育って来年また会おうね

9月7日(水)、良城小学校と地域づくり協議会の共催による「ホタル放流の集い」を開催しました。

式典では、良城小ホタル委員の児童が、6月のホタル採取から放流までの3ヶ月間にわたる飼育経過を報告しました。また、良城小児童から多数寄せられた「ホタル俳句」の優秀作品が披露、表彰されました。式典後、育てた約1万9千匹のホタルの幼虫を、ふるさとの吉敷川に帰しました。来年の初夏には、立派に育ったホタルの乱舞が見られることでしょう。今から楽しみです！



ホタル俳句優秀作品

〔最優秀賞〕

清き川 ほたるで結ぶ 吉敷の輪

5年 梅田晃大

〔優秀賞〕

またあえたよしきのかわにほたるとぶ

3年 杉山 巧希

くらやみをほのかに照らす ホタル川

4年 佐藤 澪

ほたるの灯 自然がつくる 名画なり

6年 小西 然

手のひらに 一つの星が 飛んできた

6年 西本 美羽

暗やみに 希望の光 満ちあふれ

6年 田口 寧菜

ウサギの餅つき見えたかな？

みんなで作った食べられるお月様

9月10日(土)、十五夜を前に「お月見団子づくり教室」を開催しました。

参加したほとんどの子ども達が初挑戦でしたが、食生活改善推進員さんの指導のもと、ジャガイモをベースとしたまん丸のお団子を完成させることができ、目と舌で日本の伝統文化を堪能しました。



スポーツ新時代の幕開け！ 約100名の選手団が大活躍

9月11日(日)、晴天のもと、維新百年記念公園をメイン会場として、「市民体育大会」が盛大に開催されました。開会式では21地域、総勢約2000名の選手代表として、佐藤晃一朗くん(木崎団地)が選手宣誓を元気いっぱい行いました。



陸上・レックスポ競技は、この日に向けて練習してきた成果を発揮し、1000mむかで競争では男子は1位、女子は2位、最終種目の地域別対抗リレーでは見事1位でゴールテープをきり、Bブロック総合優勝という快挙を成し遂げました。



グラウンドゴルフでは、今年5月の地区予選を勝ち抜いた6人の選手が大活躍され、見事、準優勝を果たしました。

卓球では、定期利用団体の「あすなろクラブ」の選手を中心に奮戦、準優勝に輝きました。



ソフトボールは地区の選抜チームで臨み、大会9連覇中の大内に惜敗するも、準優勝の栄冠を掴み取りました。

バレーボールは激戦の末、平川に惜敗するも、続く大歳には勝利し、Aブロック残留を死守しました。

同日、地域交流センターで開催した慰労会では、今年の好成績に沸き上がり、途中、「来年こそは絶対優勝するぞ!」との優勝宣言も飛び出すなど、来年の大会における各競技の入賞を皆で固く誓い合いました。



選手の皆さん、また応援に駆けつけてくださった地域の皆さん、暑い中大変お疲れ様でした。



地域の防災関係者により 「図上訓練」を実施しました

8月29日、地域交流センターにおいて、地区防災会の初めてとなる図上訓練を実施しました。

地域の危険箇所を調べ、災害時に避難所へ安全に避難するためのハザードマップを住民の立場でつくりあげるための訓練です。

自分達が住んでいる

周りの様子を調べてみよう

訓練では、防災士をはじめ町内会から選出された地域の情報に詳しい連絡員などが一堂に集まり、地域を5つの班に分けて、危険箇所や避難場所として使える建物などを地図上で確認していきました。



地形の特徴について説明する様子

地図上に、崖崩れが懸念される箇所には赤色、大雨による浸水が懸念される箇所には青色、避難所や病院などには黄色の丸ラベルを貼るとともに、安全な場所への避難経路を黄色いテープで示しました。

作業するときの表情は真剣そのもの。こうして住民の手による吉敷地区のハザードマップが完成しました。



避難経路を描いている様子

皆さんも地域の防災活動に参加しませんか

地区防災会では、来年度から実際に避難する訓練を考えていきます。

しかしながら、現在の地域防災の関係者は高齢者も多く、災害が発生したときに行動できるか心配です。中学生や高校生を含めた若い世代の積極的な参加や協力が必要になっています。

シリーズ 地名 2 「中尾」

中尾は、東鳳凰山の南麓の丘陵地にあつて、両側を山で囲まれ、わずかな南側付近が開かれていてという地形から、太古は湖だったのではないかとという説がある。しかし、定かではない。

郷土史家高橋文雄氏の説によると、中尾(ナカオ)という地名は、こうした地形、つまり「山間の小平地」を意味する「ナコ」という古語からでたのであろうと考えられる。

遺跡や記録はないが、小字名のなかに、「出水」とか、「木落」「仮股」等があることから、これは、焼き畑農耕に関係する地名で、古くから人が住んでいたことが想像される。

記録に、「中尾」の地名が出てくるのは、天正六年(一五七八)、天正十九年(一五九二)の「閥閥録」であるが、この頃は、吉敷庄(吉木庄)に含まれていたようである。

中尾村という独立の村として扱われたのは、享保年間(一七二六～一七三五)の「地下上申」からである。

その頃の中尾村は、吉敷毛利の領地とは別で、萩藩の直轄領で山口宰判に属していた。

明治維新前の中尾の政治は、五氏(井原、乃美、秋里、馬木、赤川)の給

領地として分けて預かり、それぞれには、村役人として庄屋二人、畔頭一人、ほかに給使が数人いた。

庄屋は、村の治安や租税、土木工事の監督をし、畔頭は、給使を指揮して庄屋の事務を手伝っていた。

また、藩からの通達は庄屋が受け取り、畔頭に伝え、さらに小触という役の人を使って村人に伝える仕組みであった。

当時の戸数は二二三戸、人口は五四四人が記録されている。

明治十六年(一八八三)、村の経済運営や財政規模、学校経営の面で困難となり、吉敷村と合併し、吉敷中尾村と呼ばれた。

中尾の総面積は約一十一haで、吉敷の二十七haのおよそ四〇%に当たるが、その大部分は山林で、東の浴川と西の浴川に沿って耕地と住宅が展開している。

なお、言い伝えによると、天文二〇年(一五五二)、凌雲寺が焼失したとされる頃には、この寺には三〇〇の宿坊があつたと言われている。

すると当時は、中尾の世帯数や人口はもっと多く活気に満ちた村であつたろうと想像される。

コーラスYui

DATA

【活動日】第1、第3土曜日 19時～21時

【活動場所】地域交流センター 講堂

【会員数】50名

地域交流センター登録団体等を紹介するコーナー「よいきで輝く」。
ある会報の二説を紹介する。「音楽が好き、人が好き。みんなとつながっていたい。そんな気持ちにピタッときた。結々Yui人と人を結ぶ。それを大事にできるような団になればいいな。」この吉敷では、明るい歌声が人を結ぶ。今月は「コーラスYui」を紹介することしよう。

Yuiは、元々定期利用団体であつた良城小学校PTAコーラスをその前身とし、3年前に新規結成されたコーラスグループだ。指揮者の工藤三千代さん、ピアノの村田あゆ子さん、そしていつも明るく元気でなぜか関西弁の代表宮田結子さんを中心に吉敷の歌好きが集まつた。

それぞれのパートごとに練習を行った後、皆で揃つての合唱となる。アットホームな雰囲気が始まられた。練習にお邪魔すると子どもの姿が何人も見えた。聞いてみると、メンバーの子どもが入団する時代になったとのことだ。まさに「Yui2世」が活動する時代になった。

練習の成果は、県合唱連盟主催の歌フェスやおかあさんコーラス大会。地区においても、ふるさとまつりや



音楽好き！人も好き！ほな いで！

赤田神社秋祭りなどでもその明るい歌声を届けていることは、みなさんご承知のとおりだ。

音楽が好き、人が好き、そしてみんなとつながっていたいと思う方はぜひともYuiをのぞいて見て欲しい。歌うことを通して結ばれる心の絆は、きつとあなたの人生を豊かにするに違いない。

「ちょっと待って～な！いま男の歌い手急募やし～ほな頼むね！」と帰りに宮田さんに言われた(笑)。

「夢と希望と感謝を」

吉敷地区は、歴史的に古い史跡が残るとともに、多くの偉人も輩出しています。

8月に開催されたりオ五輪では、個々の競技をゆつくりと観戦することができ、日本代表選手の多くのメダル獲得に感動しました。

その中で、吉敷地区出身の2名のアスリートが日本代表選手として出場しました。サッカー男子の原川力選手、また、柔道73キログラム級で金メダリストとなった大野将平選手です。こんなにもすばらしいプレゼントは、二度とないかもしれません。

この若い「吉敷人」の2人と私には、共通の歌があります。それは母校良城小学校の校歌です。

『白雲湧立つ鳳翔山
み空に高く聳えて雄々し
幾千代人の胸をや打ちし
仰げ此の山 我等の心』

将来、多くの吉敷人が育ち、世界に羽ばたく時、わが郷土「吉敷」に生まれた誇りと感謝を忘れず活躍して欲しいと思います。

広報委員 内田 信行

【発行・編集】

吉敷地区広報委員会(〒753-0816 山口市吉敷佐畑一丁目4番1号)

☎083-922-3344 吉敷地区地域づくり協議会

☎083-922-0668 吉敷地域交流センター(行政窓口担当)

☎083-922-3915 吉敷地域交流センター(地域担当)

吉敷地区地域づくり協議会 ウェブサイト

<http://www.yoshikibito.com/>

吉敷地区地域づくり協議会

検索